

第69回(2025年度) 北海道開発技術研究発表会論文

一般国道 238 号紋別防雪事業と連携した地域協働型道路マネジメントの取組み

—地域ニーズに即した道路づくりと地域連携を目指して—

網走開発建設部 興部道路事務所

○岩佐 至恩

高見 雅史

土田 和宏

道路計画課

一般国道238号紋別防雪事業は延長15kmの地吹雪による視程障害や交通事故の低減などを図り、道路の安全な通行の確保を目的とした事業で、令和7年3月に開通した。当該事業では円滑な事業の進行・実施を目的に市民参画プロセスを取り入れ、現在では紋別協働型道路マネジメントとして、「安心・安全な道路環境の確保」等に向け官民連携した取組みを行っている。本報告ではこの地域協働の取組みについて報告するものである。

キーワード：交通ネットワーク、防災、積雪寒冷地、产学官

1.はじめに

一般国道 238 号紋別防雪事業は、北海道紋別郡湧別町字川西～紋別市小向間の延長 15km の地吹雪による視程障害や交通事故の低減及び危険箇所の解消を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした事業である。

当該区間は近くに代替路がなく、鉄路も廃止されていることから、日常生活のみならず、医療体制の充実している遠軽町及び北見市等への救急医療搬送等、命にも関わる重要な役割を担っている。しかし、地吹雪による視程障害や通行止めの発生、曲線が連続する箇所や急勾配箇所での正面衝突等による死亡事故が発生していた。

のことから、上記課題を解消するため、平成20年度に事業化し、令和7年3月に全線開通した。

当該事業では、円滑な事業の進行・実施を目的に市民参画プロセスを取り入れ、現在では紋別協働型道路マネジメントとして、「安心・安全な道路環境の確保」等に向け地域と連携した継続的な活動を行っている。

2.一般国道 238 号紋別防雪事業の概要

当該区間は、冬季の視程障害（吹雪）による通行止めが多く発するとともに、重大事故になりやすい正面衝突の割合が高く、死傷事故100件あたりの死者数は、北海道の国道・道道平均と比べて約7倍と高い状況であった。

そのため、防雪対策として防雪林等の設置、正面衝突等の交通事故対策として中央分離帯の設置・道路拡幅等を実施している。

防雪林等の設置においては、自然再興（ネイチャーボ

ジティブ）の観点から、既存林である旧鉄道林の積極的な活用や、道路拡幅時に支障となる沿道の自生樹木を移植する等、周辺環境に配慮した道路整備を進めた。

当該事業区間の起点側に位置する湧別町区間は、現道活用区間として、防雪柵を整備するとともに、中央分離帯設置や拡幅等を行った。終点側に位置する紋別市區間は、沿道部に集落・市街地が形成されており、隘路等の存在も考慮して一部区間を別線整備としている。



図1 一般国道238号紋別防雪事業 箇所図



写真1 当該区間の全線開通時の様子



図2 一般国道238号紋別防雪事業 概要図



写真2 当該区間で発生した地吹雪による立ち往生



写真3 当該区間で整備した中央分離帯

3. 地域協働型道路マネジメントの導入

当該事業において、円滑な事業の進行・実施を目的として、市民参画プロセスを取り入れた。郊外部を通過する湧別町区間と、沿道部に集落・市街地を形成する紋別市区間で地域特性に違いが見られたことから、湧別地区懇談会（湧別町区間）と紋別防雪を考える会（紋別市区間）を立ち上げ、地域の実情に応じた市民参画プロセスの導入を検討した。

また、道路行政において、見落とされがちな女性視点のニーズ把握等を目的に、紋別市域に在住の地域活動を行っている女性により構成される「女性の視点を活かした道づくり懇談会」を設立し、幅広い地域・ユーザーからの意見収集、地域連携を図りながら事業を進めた。

3. 1 湧別地区懇談会の開催（湧別町区間）

郊外の一部を通過するのみの湧別町区間は、現道の線形等を変更せずに全線拡幅等で整備することを基本とした。沿道部に耕作地等が分布する等、地域の利害関係者は農家を中心のことから、利害関係者が直接的に参加する懇談会を開催し、合意形成を図った。

3. 2 紋別防雪を考える会の開催（紋別市区間）

沿道部に集落・市街地が形成されている紋別市区間は、隘路等の存在により一部で別線整備を検討する必要があった。また、コムケ湖に近接する等、景

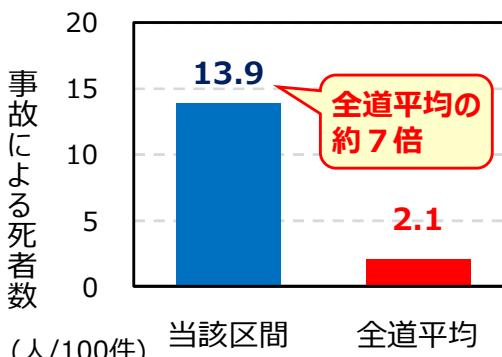


図4 当該区間の交通事故の死者数

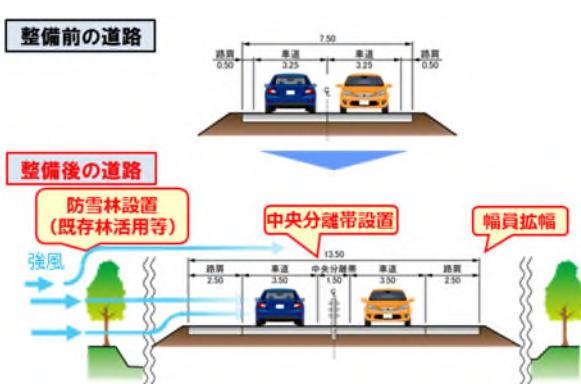


図5 一般国道238号紋別防雪事業 道路横断図

観・環境面で優れた地域を通過することや通院及び救急医療搬送等の市民生活においても非常に重要な路線であることから、多様な利害関係者との意見交換による合意形成プロセスが望まれた。

そこで、沿道の自治会や道路利用者である産業、観光、医療等の事業者、並びに環境団体等の代表者より構成した、「紋別防雪を考える会」を立ち上げ、地域合意形成を図るために意見収集や事業の進め方等について協議を図りながら、事業計画を取りまとめた。

3. 3 女性の視点を活かした道づくり懇談会

紋別市域に在住し地域活動を行っている女性により構成される「女性の視点を活かした道づくり懇談会」を設立・開催し、女性の視点からの冬の運転や道路の安全性等に関する意見把握等、市民参画プロセスの一つとして導入した。

当該事業の事業化後も「女性の視点を活かした道づくり懇談会」を中心として、官民連携した地域懇談会が開催され、官民が一体となり道路情報や観光案内、地域目線で危険な冬道をマップ化した「ゴマップ」を作成・配布する等、道路行政と地域が一体となって「安心・安全なまちづくり」「魅力的なまち」を目指して道路事業を考えていく活動を精力的に実施した。



写真4 女性の視点を活かした道路づくり懇談会

3. 4 紋別協働型道路マネジメントへの移行

紋別協働型道路マネジメントは、「誰もが安心・安全に暮らせるための道」と「豊かな未来を育む魅力あるまちづくり」をテーマに掲げ、地域の活性化を目的に、地域住民と行政が共に考え、行動し、地域課題を解消していく官民協働の活動として平成24年度に設立された。

組織体制は、一般国道238号紋別防雪事業の市民参加プロセス「紋別防雪を考える会」にて連携を図った紋別商工会議所、(社)紋別観光協会、オホーツクのみちと未来を考える会等の地域住民・団体、国道、

道道、市道の各道路管理者、そして「女性の視点を活かした道づくり懇談会」から構成される。また、アドバイザーとして学識経験者にも参加いただいている。



図6 道路情報や観光案内等を掲載した「ゴマップ」

4. 紋別協働型道路マネジメントの活動内容

紋別協働型道路マネジメントは、平成24年度の設立以降、これまで27回の会議を開催し、官民連携の地域に根付いた活動を継続的に実施している。

その中で、冬季に関わる取り組みである「砂まき活動」、「除雪マナー啓発・情報発信」、「防災セミナー」について紹介する。

4. 1 砂まき活動

冬季の道路環境における安全性向上は重要な課題であり、中でも「除雪後の歩道は特に滑りやすく危険」、「流氷観光等、冬季に来紋する観光客は雪に不慣れなため安全確保が必要」等の意見が協働メンバーから出たことを踏まえ、「冬季における歩行者の安全確保」に着目した「砂まき活動」を実施している。

「砂まき活動」は、「女性の視点を活かした道づくり懇談会」が中心となり、地域の民間会社の協力のもと砂入りペットボトルの作成・配布活動を開始した。

継続的な配布活動は、地域活動として浸透していく、現在では、紋別養護学校の授業にも組み込まれ、観光施設やもんべつ流氷まつり会場で配布する等、生徒の社会貢献の場の創出や観光客の安全確保に貢献している。

4. 2 除雪マナー啓発・情報発信

冬季の道路環境の改善ならびに安全性の向上のため、「除雪作業の効率化」は重要な課題である。効率的・効果的な除雪を行うためには、地域住民の除

雪作業への理解と協力が必要という視点から、除雪勉強会を実施し、官民それぞれが感じている課題を共有した。

勉強会を通じ、協働メンバーの除雪に対する理解が深まる一方で、「今まで知らなかったことも多く、知っているからこそ協力できる市民としての役割がある」との意見が出たことから、地域住民の除雪への理解を深めるため「市民から市民へ伝える」をテーマに「除雪マナー啓発活動」を行っている。



写真5 紋別養護学校と連携した砂まき活動の様子



写真6 砂まきペットボトルの配布の様子

主な取組みとして、地域住民が主体で作成した除雪マナー啓発記事を、紋別市の協力のもと広報誌の紙面に掲載している。

【保存版】～冬の間保管しておきましょう～

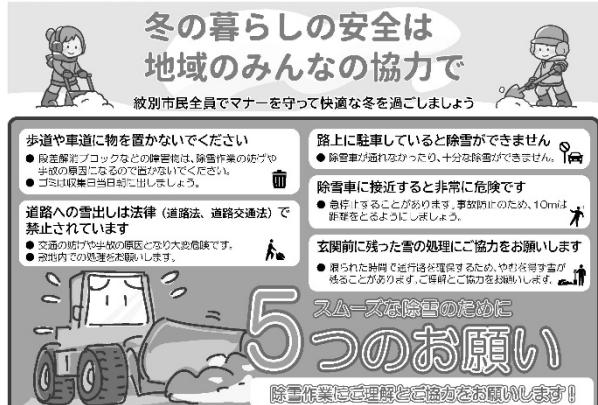


図7 「除雪マナー啓発」のチラシ (抜粋)

4. 3 防災セミナーの実施

紋別市は災害が少ないと言われている一方、近年は猛吹雪による鉄塔倒壊の影響で大規模停電が発生（令和4年12月）する等、災害が増加傾向にある。

会議において、協働メンバーから「紋別市民の防災意識は低いと感じる」との意見が挙げられたことから、増加する災害への備えとして「防災意識の向上」に着目し、地域住民が防災に関わる機会の創出を目的とした「防災セミナー」を平成27年度から継続的に開催している。

防災セミナーは、協働メンバーで意見を出し合い、「防災に興味持つてもらう」、「楽しみながら参加できる」ことに重点を置き、子どもも楽しめながら参加できるようbingoを用いた防災ゲームによる「家族で学ぶ防災セミナー」や災害時のリーダー育成を目的とした学識者を招いた講演会、避難所運営ゲーム等の体験型セミナー、暴風雪を想定した地域住民による防災ワークショップ等を開催している。



写真7 防災セミナーの開催状況

5. おわりに

本稿では、一般国道238号紋別防雪事業に関する道路整備概要、当該事業の円滑な進行・実施を目的に導入した市民参画プロセスを活用した紋別協働型道路マネジメントの取組みについて紹介した。

一般国道238号紋別防雪事業は、平成20年に事業化され、中央分離帯による重大事故の防止、防雪林による地吹雪対策を目的に令和7年3月に開通を迎えた。今後は、視程障害や冬季交通事故の発生状況をモニタリングし、PDCAサイクルに基づいた対策効果・追加対策の検証等、地域を守る道路として、今後も効果的な道路維持管理に努めていきたい。

一般国道238号紋別防雪事業のために導入した市民参画プロセスを契機に、官民が一体となって「みち」について考える紋別協働型道路マネジメントの取組みは、創意工夫による地域の安心・安全で使いやすい道路整備・運用を可能とし、コストや所掌範囲に縛られる道路管理者やコンサルタントのみでは実施できなかつた大きな成果である。今後も紋別協働型

道路マネジメントを通じて、道路管理者と地域住民の地域を良くしたいという意識の共有、そして主体的な活動の継続に向けてより一層連携を図っていきたい。

最後に、紋別協働型道路マネジメントメンバーである紋別商工会議所、紋別商工会議所青年部、株式会社観光振興公社、MONBETSU hazimeru、女性の視点を活かした道づくり懇談会、オホーツクのみちと未来を考える会、各道路管理者、学識経験者の皆さんに感謝の意を表します。